

布施晶子先生の略歴と研究活動の歩み

1 略歴

(1) 学歴

1961年 北海道大学文学部哲学科社会学専攻卒業

1966年 北海道大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了（文学修士）

1967年 北海道大学大学院文学研究科社会学専攻博士課程退学

(2) 職歴

1961年 北海道大学法学部助手

1967年 東京声専音楽学校講師

1969年 昭和音楽短期大学助教授

1975年 札幌静修短期大学教授

1977年 札幌商科大学（現・札幌学院大学）人文学部教授

2010年 札幌学院大学名誉教授

(3) 主な役職歴（札幌学院大学）

1985年 札幌学院大学教務部長（3期6年）

1989年 札幌学院大学図書館長（1期2年）

2004年 札幌学院大学学長（2期6年）

2 学会活動

(1) 所属学会

1965年 日本社会学会

1965年 北海道社会学会

1968年 家族問題研究会（現・家族問題研究学会）

1992年 日本家族社会学会

(2) 学会役職

日本社会学会理事（1986年以降4期8年）

日本家族社会学会理事（1992年以降3期9年）

北海道社会学会会長（1997年～2001年）

社会学系コンソーシアム理事長（2009年～2010年）

3 主な社会活動

- 1980年～1995年 北海道社会福祉審議会委員
1985年～1990年 北海道開発審議会委員
2001年～2003年 江別市介護保険事業計画策定委員
2003年～2006年 第19期日本学術会議補欠委員

4 主な研究業績

<著書>

- 1 「現代家族の生活構造」(佐藤毅・鈴木広・布施鉄治・細谷昂編『社会学を学ぶ』有斐閣), 1970年
- 2 「共働き家族の人間関係」(山室周平・姫岡勤編『現代家族の社会学』培風館), 1970年
- 3 「マスコミ産業に働く婦人労働者」(嶋津千利世編『合理化と婦人労働者』労働旬報社), 1970年
- 4 「内職, パートで働く婦人たち」(嶋津千利世編『婦人と労働』新日本出版社), 1970年
- 5 「戦後日本における夫婦関係の変容」(湯沢雍彦・副田義也・松原治郎・麻生誠編『講座社会学セミナー第3巻 家族・福祉・教育』有斐閣), 1972年
- 6 「家族と職業」(森岡清美編『社会学講座第3巻 家族社会学』東大出版会), 1972年
- 7 「婦人をめぐる変化」(青井和夫・増田光吉編『家族変動の社会学』培風館), 1973年
- 8 「現代の社会と家族」, 「夫婦関係」(望月嵩・山手茂・佐藤カツコとの共編『家族関係と家族福祉』高文堂出版), 1973年
- 9 「現代家族の内部構造－婦人の就業と家族関係－」(森岡清美編『新家族関係学』中教出版), 1974年
- 10 「労働と生活」(婦人労働問題研究会編『現代の婦人労働問題』労働旬報社), 1975年
- 11 「家族の役割構造」, 「家族の勢力構造」, 「婦人の就労と家族構造」(山根常男・森岡清美・本間康平・竹内郁郎・高橋勇悦・天野郁夫編『テキストブック社会学2 家族』有斐閣), 1977年
- 12 「労働者家族の生活」(黒川俊雄・嶋津千利世・犬丸義一編『講座 現代の婦人労働』第三巻, 労働旬報社), 1978年
- 13 「共働き家族の病理」(那須宗一他編『家族集団の病理』誠信書房), 1979年
- 14 「『主婦』と『仕事』」(岩男寿美子・北村節子編『現代日本の主婦』NHKブックス), 1980年
- 15 「共働き家族」(望月嵩・木村汎編『現代家族の危機』有斐閣双書), 1980年
- 16 「労働者家族」(篠原武夫・土田英雄編『地域社会と家族』培風館), 1981年
- 17 「労働者の家庭生活における諸問題－生産・労働－生活史・誌と家族－」, 「三菱M鉦における職員層の生産・労働－生活史・誌」(布施鉄治編著『地域産業変動と階級・階層』御茶の水書房), 1982年

- 18 「戦後日本社会の発展と家族の変容」(布施鉄治・鎌田とし子・岩城完之編『日本社会の社会学的分析』アカデミア出版会), 1982年
- 19 「戦後日本社会の発展と家族」, 「新しい家族の創造をめざして」(玉水俊哲との共編『現代の家族—新しい家族の創造をめざして』青木書店), 1982年
- 20 「差別撤廃条約」(湯沢雍彦・阪井敏郎編『現代の差別と性役割—性別と家族の社会学』培風館), 1982年
- 21 「二一世紀の家族像」(岩波書店編集部編『これからどうなる—日本・世界・21世紀—』岩波書店), 1983年
- 22 『新しい家族の創造—『母親』と『婦人労働者』のはざままで—』青木書店, 1984年
- 23 「“専業主婦”主流の時代—模索のなかで創りつつあるもの—」(斉藤茂男編『講座現代・女の一生4 夫婦・家庭』岩波書店), 1985年
- 24 「現代の社会と私たちの家族」, 「私たちが創る私たちの家族」(津田美穂子・松浦勲との共著『私たちが創る私たちの家族』学習の友社), 1985年
- 25 「疎外された愛をとりもどすために」(「わたしの選択・あなたの未来」編集委員会編『わたしの選択・あなたの未来』労働旬報社), 1986年
- 26 「現代の家族—危機の構図と再生への模索—」(清水民子・橋本宏子との共編『現代家族の危機と再生—現代の夫婦—』全3巻, 青木書店), 1986年
- 27 「将来戦略と日本の女子労働」(婦人研究者グループ編『世界女性の『将来戦略』と私たち』草の根出版会), 1986年
- 28 「家族と地域社会」(望月嵩・目黒依子・石原邦男編『リーディングス日本の社会学4 現代家族』東京大学出版会), 1987年
- 29 「こどもの発達と家庭環境—社会とのかかわりを中心に—」(北海道大学放送教育委員会編『豊かな人間性の創造』北海道大学), 1988年
- 30 「働く女性の海外動向—イギリスの女子労働—」(『経済』編集部編『「経済大国」日本の女性』新日本出版社), 1990年
- 31 「イギリスの家族」, 「いま日本の家族は」, 「現代家族のルネサンス」(玉水俊哲・庄司洋子との共編『現代家族のルネサンス』青木書店), 1992年
- 32 「K紡績と倉敷地域社会—繊維産業の歴史的展開と地域住民層の労働—生活過程」, 「家族と町内会／地域社会構造とその変動」(布施鉄治編著『倉敷・水島／日本資本主義の展開と都市社会』東信堂), 1992年
- 33 『結婚と家族』岩波書店, 1993年
- 34 「日本における高齢者介護施策と家族・親族」(森岡清美監修『家族社会学の展開』培風館), 1993年
- 35 「イギリス社会と家族変動」(野々山久也・袖井孝子・篠崎正美編『いま家族に何が起って

いるのか』ミネルヴァ書房), 1996年

- 36 「家族福祉とネットワーク」(木下謙治・小川全夫編『家族・福祉社会学の現在』ミネルヴァ書房), 2001年
- 37 「戦後日本社会の発展と家族の変容」(再録)(片倉比佐子編『日本家族史論集6 家族観の変遷』吉川弘文館), 2002年
- 38 「ナイロビNGOフォーラムへの報告・日本における婦人労働者の実情」(再録)(女性労働問題研究会編『女性労働・20世紀から21世紀へ』青木書店), 2002年
- 39 「内職, パートで働く婦人たち」(再録), 「労働と生活」(再録), 「労働者家族の生活」(再録)(『戦後女性労働基本文献集15(嶋津千利世編) 婦人と労働, 22(婦人労働問題研究会編) 現代の婦人労働問題, 24(黒田俊雄・嶋津千利世・犬丸義一編) 労働者の生活と家事・育児』日本図書センター), 2006年1・5月

<学術論文>

- 1 「都市家族の内部構造の変容に関する一考察」(日本社会学会『社会学評論』68号, 有斐閣), 1967年
- 2 「『産業化』と『家族』に関する若干の覚え書き」(北海道都市学会年報『北海道都市』4号), 1967年
- 3 「賃労働者の労働-生活過程と家族の構造・機能」(日本社会学会『社会学評論』105号, 有斐閣), 1976年
- 4 松浦勲との共著「労働者家族の生活史(1)-生計の維持を中心にみた事例研究-」(『札幌学院大学商学部・短期大学論集-人文編-』21号), 1977年
- 5 「戦前における労働者家族の生活(上)(下)」(歴史科学協議会『歴史評論』347号, 348号, 校倉書房), 1979年
- 6 「疾病・障害をもつ老人の家族ケア-今日における日本の家族の諸状況をふまえて-」(『日本老年科学学会年報』), 1981年
- 7 「家族研究の軌跡と課題」(日本社会学会『社会学評論』150号, 有斐閣), 1987年
- 8 「老人ケアをめぐる最近の動向-イギリス-」(家族問題研究会『家族研究年報』第14号), 1989年
- 9 「イギリスの家族-サッチャー政権下の動向を中心に-」(北海道社会学会『現代社会学研究』2号), 1989年
- 10 「サッチャリズムと老人の暮らし」(『札幌学院大学現代法研究所年報』), 1989年
- 11 「女性の就労と家事・育児・老親介護」(家計経済研究所『家計経済研究』6号), 1990年
- 12 「今, 日本の家族に何が起きているか-家族社会学はどう答えるか-」(家族社会学セミナー『家族社会学研究』第2号), 1990年

- 13 「イギリスにおける老人福祉の展開と家族－パーソナル・ソーシャル・サービスを中心に－」
（『札幌学院大学人文学会紀要』47号），1990年
- 14 「現代イギリス家族分析のキイ概念に関する考察」（『北海道大学教育学部紀要』65号），1995年
- 15 「社会学教育の実態と動向に関する調査報告書」（日本社会学会『社会学評論』185号，有斐閣，1996年
- 16 *Status of Family Theory and Research in Japan*, Marriage and Family Review vol.22, The Haworth Press, 1996
- 17 「働く女性と地域」（市立名寄短期大学道北地域研究所『地域と住民』14号），1996年
- 18 Marvin B.Sussman, R.S. Hanks(eds), *Status of Family Theory and Research in Japan, Intercultural Studies*, Vol. 1, The Haworth Press, 1996
- 19 「最近のイギリスにおける家族政策の特徴と家族研究」（日本家族社会学会『家族社会学研究』12（1）号），2000年
- 20 「共働き家族の子どものケア－日英比較研究－」（北海道社会学会『現代社会学研究』14号），2001年
- 21 *Working Parents and Childcare(1)(2)-A Comparative Study between the U.K. and Japan*
（『札幌学院大学人文学会紀要』70・72号），2001・2002年
- 22 「北海道の家族－第2次世界大戦後の変化を中心に－」（北海道社会学会『現代社会学研究』15号），2002年
- 23 「高齢者の社会的ネットワークに関する実証的研究－北海道歌志内市における事例研究－」
（『西日本社会学会年報』創刊号），2003年
- 24 「共働き家族の子育てネットワーク－全国18保育園に子どもを預ける父母を対象とする調査分析－」（『関東学院大学文学部紀要』102号），2004年

<雑誌論文>

- 1 「共働き家庭」（『家庭科教育』（5）家政教育社），1970年
- 2 「共働き家庭の団らん」（『家庭科教育』（9）家政教育社），1970年
- 3 「あたらしい家庭の萌芽」（全国福祉協議会『保育の友』5月号），1971年
- 4 「婦人解放の道すじと家事・育児」（『賃金と社会保障』647号，労働旬報社），1974年
- 5 「今日における婦人の社会的産業への復帰をめぐる」（『賃金と社会保障』664号，労働旬報社），1974年
- 6 「共働き家族」（『ジュリスト 増刊総合特集－現代の家族－』6，有斐閣），1977年
- 7 「共働き家族と婦人労働政策」（『法学セミナー 総合特集シリーズ』10，日本評論社），1979年
- 8 「国際女性学会に出席して」（『家庭科教育』家政教育社），1979年
- 9 「現代社会学の諸相－家族」（総合労働研究所『季刊労働法別冊 特集現代社会学』6号），1980年

- 10 「女性の職業的自立と家事、育児の役割」(総合労働研究所『季刊労働法』118号), 1980年
- 11 「老人と家族」(『経済』204号, 新日本出版社), 1981年
- 12 「性役割のみなおしの動向と労働者家族－北海道根室市における実証的研究を中心に－」(『賃金と社会保障』833号, 労働旬報社), 1982年
- 13 「婦人労働者と家庭問題－崩壊の危機と解決・再生の道－」(『賃金と社会保障』861号, 労働旬報社), 1983年
- 14 「今日における家庭崩壊の危機と再生の方向」(家庭科教育研究者連盟『家庭科研究』77号), 1983年
- 15 「男女平等の虚像と実像」(婦人労働問題研究会『婦人労働問題研究』5号, 労働旬報社), 1984年
- 16 「現代社会と家族－子育ての原点の再生をめざして－」(教育科学研究会『教育』436号, 国土社), 1984年
- 17 「現代家族と“日本型福祉社会”論」(『文化評論』新日本出版社), 1984年
- 18 「ナイロビNGOフォーラムにむけての報告－日本における婦人労働者の実情 (*Condition of Women Workers in Japan – A Report to the Nairobi NGO Forum, Study Group on Problems of Female Labor* –)」(『賃金と社会保障』916号, 労働旬報社), 1985年
- 19 「今日における労働の態様と家族」(『法学セミナー－総合特集・これからの家族－』日本評論社), 1985年
- 20 「国連・婦人の十年と日本の家族」(『家庭科教育』あゆみ書房), 1985年
- 21 「男女『共生』の道をさぐる旅」(『賃金と社会保障』931号, 労働旬報社), 1986年
- 22 「父性・母性」(『世界臨時増刊号 特集－世界を読むキーワード－』岩波書店), 1986年
- 23 「家族の変貌と社会福祉－日本・イギリス・スウェーデン－」(『賃金と社会保障』988号, 労働旬報社), 1988年
- 24 「イギリスの女子労働－サッチャー政権下の動向を中心に－」(『経済』304号, 新日本出版社), 1989年
- 25 「老人福祉政策の現状と働く女性」(『賃金と社会保障』1050号, 労働旬報社), 1991年
- 26 「国際家族年と労働者階級」(労働運動総合研究所『季刊労働総研クォーター』14号), 1994年
- 27 「労働者家族と国際家族年」(『労働運動』352号, 新日本出版社), 1994年

<その他の小論・報告書等>

- 1 「科学・技術の発達と婦人教育の動向」(英文) [*FAIT ET TENDANCES, Belgrade*] (ブルガリアにおける婦人研究者の国際会議「科学、技術の発達と婦人教育」に誌上参加した際の小論)
- 2 「婦人の地位を考える」(『書斎の窓』有斐閣), 1975年
- 3 「北海道の働く婦人の動向」(保育団体合同研究集会北海道実行委員会編『北海道の保育白書』),

1977年

- 4 「現代における主婦の就労－その実態と問題をめぐって－」(国際女性学会編『78東京会議報告書』), 1978年
- 5 *The State and Problems of Housewives Work in Contemporary Japan, (Proceeding of the Symposium on Women, Tokyo)*, 1979年
- 6 「現代の家族をとりまく状況」, 「育児の社会的保障－共働き家族と育児－」(日本婦人団体連合会『婦人白書』草土文化), 1979年
- 7 「いまなぜ『家族』なのか」(日本婦人団体連合会『婦人通信』238号), 1980年
- 8 「地域社会構造の変化と住民生活上の諸問題－北関東群馬県新田郡藪塚本町の分析－」(北海道大学教育学部教育社会学講座『地域産業・住民生活・社会構造の変動と「社会計画」』), 1980年
- 9 「戦後日本家族の動向と家族政策」(日本婦人団体連合会『婦人白書』草土文化), 1980年
- 10 「現代女性の進路」(労働教育センター『女子教育問題』), 1980年
- 11 「現代の貧困と家族生活の危機」(全国保育団体合同研究会実行委員会『保育白書』草土文化社), 1982年
- 12 「子は親の後姿をみて育つか」(日本婦人団体連合会『婦人通信』276号), 1982年
- 13 「母子世帯の実態」(北海道社会福祉協議会『82年北海道母子世帯実態調査報告書』), 1983年
- 14 「現代家族の特徴と家族問題」(『第17回北海道私立高等学校教科別研修会収録』), 1984年
- 15 「女性の社会・政治意識－最近の諸意識調査の分析を中心に－」(新日本婦人の会中央本部『新婦人情報』8号), 1984年
- 16 「男女平等をめぐる意識」(『資料男女雇用平等法』学習の友社), 1984年
- 17 「母子世帯の生活と福祉」(北海道社会福祉研究会『北海道の福祉』北海道新聞社), 1984年
- 18 「母親労働者を締めだす“9時間労働”」(日本婦人団体連合会『婦人通信』300号), 1984年
- 19 *The Japanese Family in Transition (1)* (*The Japan Foundation News Letter, The Japan Foundation*), 1984年
- 20 「北海道の寡婦－老後の生活設計を中心に－」(北海道社会福祉協議会・全道民生委員連盟『全道中高年女性生活実態調査報告書』), 1985年
- 21 *The Japanese Family in Transition (2)* (*The Japan Foundation News Letter, The Japan Foundation*), 1985年
- 22 「倉敷市/繊維都市・地域住民層の生産・労働－生活過程/家族と町内会組織」〔北海道大学教育学部教育社会学研究室編『調査と社会理論』研究報告書8－倉敷市/倉敷, 児島, 玉島, 水島地域産業変動と住民諸階層の生産・労働－生活様式の変質分析シリーズ4(科学研究費報告書)－], 1985年
- 23 「今日における家族の社会的機能と社会保障」, 「地域産業・地域社会の興廃と住民生活防衛－課

- 題の限定と方法」,「歌志内A炭鉱労働者家族の労働－生活過程にみる生活防衛の構造」,「産炭都市・北海道歌志内における事例的分析－その2」〔札幌学院大学人文学部社会調査室編『今日における家族の社会的機能と社会保障の関連についての実証的分析』(科学研究費報告書)], 1985年
- 24 「変わりゆく家族像」(『時事教養』1号, 自由書房), 1985年
- 25 「家族問題と家族政策」(日本婦人団体連合会『婦人白書－国連婦人の十年・日本の婦人はどこまできたか－』草土文化), 1985年
- 26 「共働き研究をライフワークとして」(『私たちの家庭科－We－』ウィ書房), 1985年
- 27 「女たちの人類へのメッセージ－水汲み労働からコンピューター労働まで－」(岩波書店編集部編『地球規模の男女平等－ナイロビから21世紀へ－』岩波ブックレット50号), 1985年
- 28 「今日における労働の態様と家族問題」(新日本婦人の会中央本部『新婦人情報』32号, 1986年
- 29 「北海道における高齢者の社会関係に関する実証的研究－苫小牧における事例分析－」(北海道高齢者問題研究会『高齢者問題研究』2号), 1986年
- 30 「『男女雇用機会均等法』を考える」(生協連『コープファミリー』6号), 1986年
- 31 「紳士の国の裏側で－サッチャー政権下のイギリス家族－」(日本婦人団体連合会『婦人通信』354号), 1989年
- 32 「愛の労働のゆくえ」(新日本婦人の会中央本部『新婦人情報』72号), 1989年
- 33 「現代の家族環境と子ども」(日本子どもを守る会『子ども白書』草土文化), 1989年
- 34 「ミセス・サッチャーの十年」(『科学と思想』74号, 新日本出版社), 1989年
- 35 「北海道における高齢者の生活実態」,「北海道の高齢者－鷹栖町20年の歩み－」(北海道高齢者問題研究協会『89いま北海道の高齢者は』), 1990年
- 36 「共働き家庭と子ども－子どもの権利条約を中心に－」(日本子どもを守る会『子ども白書』草土文化), 1990年
- 37 「家族の変貌と老親介護」(日本婦人団体連合会『婦人通信』372号), 1990年
- 38 「家族諸階層の諸特質と諸個人の自立化過程」(北海道大学教育学部教育社会学研究室『調査と社会理論－現下わが国における地域社会再開発に関する文化変動論的基礎的研究その1－』14号), 1990年
- 39 「解説:玉城肇『家族論』」(芝田進午・鈴木正・祖父江昭二編『唯物論全集, 復刻, 新編集版』久山社), 1990年
- 40 「諸外国にみる女性の自立」(札幌市婦人文化センター『女性学講座』2号), 1990年
- 41 「売買春を考える」(『札幌弁護士会会報』247号), 1990年
- 42 「今, 女性と家族が変わるとき」(全国保育問題研究協議会編集委員会『季刊保育問題研究』124号, 新読書社), 1990年
- 43 「現代日本の家族問題」(日本婦人団体連合会『婦人白書 今日の家族問題』), 1992年
- 44 「生と性を紡ぐ家族へ」(日本婦人団体連合会『婦人通信』423, 424, 425号), 1994年7, 8,

9月

- 45 「国際家族年・生と性を紡ぐ家族の形成へ」(『ほんりゅう』128号), 1994年
- 46 「いま, 日本の家族は(上・下)」(『同友道北』22, 23号) 1995年1, 2月
- 47 「国際家族年・開かれた家族とは」(『明るい社会』467号), 1995年
- 48 「社会学教育の実態と動向-社会調査実習-」〔日本社会学会社会学教育委員会『社会学教育の実態と動向』(科学研究費報告書)], 1995年
- 49 『妻・母の就労が家族及び社会福祉施策に及ぼす影響に関する研究』札幌学院大学人文学部社会調査室(科学研究費報告書), 1998年
- 50 「いま世界の家族に何が起きているか」(『札幌家庭裁判所家事調停協会設立50周年記念論文集』), 2001年

<書評>

- 1 森岡清美・山根常男共編『家と現代家族』培風館, 1976年(日本社会学会『社会学評論』108号, 有斐閣), 1977年
- 2 籠山京『戦後日本における貧困層の創出過程』東大出版会, 1976年(家族問題研究会『家族研究年報』3号), 1977年
- 3 坂本福子『女性の権利』法律文化社, 1982年(『エコノミスト』2508号, 毎日新聞社), 1983年
- 4 M. セガレーヌ『妻と夫の社会史』新評論, 1983年(『赤旗』4月4日付), 1983年
- 5 鎌田とし子・鎌田哲宏『社会諸階層と現代家族』御茶の水書房, 1983年(『経済』232号, 新日本出版社), 1983年
- 6 金城清子『家族という関係』岩波書店, 1985年(『エコノミスト』2647号, 毎日新聞社), 1985年
- 7 鎌田とし子・鎌田哲宏『社会諸階層と現代家族』御茶の水書房, 1983年(家族問題研究会『家族研究年報』12号), 1986年
- 8 ジョアナ・ストラットン『パイオニア・ウーマン』講談社, 1988年(『エコノミスト』2828号, 毎日新聞社), 1988年
- 9 暉峻淑子『豊かさとは何か』岩波書店, 1989年(『経済』312号, 新日本出版社), 1990年
- 10 野々山久也編『家族福祉の視点』ミネルヴァ書房, 1992年(日本社会学会『社会学評論』175号, 有斐閣), 1993年
- 11 森岡清美『現代家族変動論』ミネルヴァ書房, 1993年(日本家族社会学会『家族社会学研究』No. 6), 1994年
- 12 金子勇『地域福祉社会学』ミネルヴァ書房, 1997年(北海道社会学会『現代社会学研究』11号), 1998年

- 13 鎌田とし子・矢澤澄子・木本喜美子編著『講座社会学 14 ジェンダー』東京大学出版会, 1999年 (日本社会学会『社会学評論』200号記念特集企画, 有斐閣), 2000年
- 14 飯田哲也・中川順子・浜岡正好編著『新・人間性の危機と再生』法律文化社, 2001年 (労働運動総合研究所『労働総研クォーターリー』44号), 2001年
- 15 渡辺秀樹・稲葉昭英・嶋崎尚子編『現代家族の構造と変容－全国家族調査による計量分析－』東京大学出版会, 2004年 (家族問題研究会『家族研究年報』29号), 2004年

＜翻訳＞

- 1 R.O.ブラッド『現代の結婚－日米の比較－』田村健二監訳 (第6章分担), 培風社, 1978年

＜辞典・辞書・事典＞

- 1 「家族」(北川隆吉監修『現代社会学辞典』有信堂高文社), 1984年
- 2 「婦人運動」他30項目解説 (『日本大百科全書』小学館), 1986年
- 3 「欧米における家族問題と家族・家庭保障」(事典刊行委員会、『社会保障, 社会福祉事典』労働旬報社), 1989年
- 4 家族関係の項目を中心に3項目執筆 (比較家族史学会編『事典家族』弘文堂), 1996年
- 5 家族関係の項目を中心に23項目執筆 (濱嶋朗・竹内郁郎・石川晃弘編『社会学小辞典 (新版)』有斐閣), 1997年

(記)

1. 本研究目録は, 2012年2月末現在で判明しているもののみを収録しました。
2. 学会等での口頭報告, 講演, 新聞コラム等は紙巾の関係から割愛しました。